

公開講座紹介・「中国語さらなる一歩」

～楊峰先生へのインタビュー～

富山大学では、70 を超える公開講座を実施し、延べ 657 人もの方々に受講していただいている（2014 年度実績）。そのすべてについてはここで紹介することはできないが、今回は、中国語の公開講座をご担当されている楊峰先生に対し、インタビュー形式で公開講座の様子をうかがってみた。



——先生のご出身はどちらですか？

中国遼寧省の大連市です。富山県と友好県省になっています。

——そうですね。富山に来られて何年になられましたか？

18 年です。

——公開講座の受講生さんたちの様子はいかがでしょう。

積極的で、一生懸命ですね。皆さんは熱心に勉強されています。

——受講生は何人くらいおられますか？

今ちょうど定員になっていますから、15 名です。

——理想の受講者数というのはありますか？

語学のクラスは、やっぱり少人数の方が理想的です。でも、少なすぎると授業があまり盛り上がりなくて、受講生のモチベーションが多少下がると思います。人数的には 14 ～ 15 名がいいかと思っています。だから今回はちょうどいいぐらいです。

——先生は、学生向けの授業と公開講座の両方をご担当されていますが、何か違いみたいなものはありますか？

正直、社会人の皆さんを対象にする講座は、講座の準備や展開など、普通の授業よりも大変です。社会人の受講生はすでにたくさんの知識や情報を持っていますから、中国のことについて、いろいろ知っている方が多くて、簡単な知識や情報では満足しにくいです。中級クラスの受講生は、中国語学習歴のある方ばかりで、知識が豊富です。資料の作成や情報収集とか、準備に手間がかかりますね。

——受講生の様子についてもう少し詳しくうかがってもよろしいでしょうか。

今年の15名の中で、現役の学生が4人います。はたち前後かな？この子たちにとっては、多分、中国語がマスターしたら、多少就職しやすくて、中国語検定試験に合格したら、就職にプラスになると考えているかもしれません。将来、国際貿易関係の仕事に就きたいという学生もいますし、中国へ留学に行きたい学生がいます。ここでちゃんと学んだら、役に立つと思っているでしょう。それから、社会人の方も、定年退職された方もいらっしゃいます。社会人の皆さんは、良く中国に旅行に行かれます。ほとんどの方は中国文化が好きで、語学ができるともっと自由に本が読めるし。旅行が好きな方々にとって、講座で勉強を重ねると、旅行に行きやすいと思います。毎日中国語を音読することが趣味とする方もおられて、私の授業を受けて毎日お家で30回ぐらい音読される方もいらっしゃるそうです。多分、公開講座を受講することによって、生活の質が高くなって、日々の生活が楽しくなっているかもしれませんね。

——今まで教えてきた中で、思い出や印象に残っていることはありますか？

皆さんと仲良くできることが、私の一番のご褒美かなと思っています。受講生は、「講座を絶対に続けて下さい。辞められたら、私たちが勉強に行くところがなくなる」とか言われます。こんなことを言うていただくと、すごくやる気につながるし、心が温かくなります。

——中国語を指導されていて、ここが難しいな、と感じることはありますか？

学生の授業はスタートが一緒だからレベル的にはほぼ一緒です。これに対して公開講座の受講生はレベルがバラバラです。でも3、4回ぐらいやれば皆さんの語学力が大体わかります。受講歴や学習が全然違って、10年勉強してこられた方がおられれば、1年しか勉強してない方もおられます。合わせていくことが正直難しいです。これは指導するときが一番苦勞するところです。ただ、受講生の皆さんは中級クラスで勉強したい気持ちがありますから、たとえ1年しか学習してない方でも、がんばればついていく気持ちがあります。指導する側として、教科書に基づいて、中級、準中級のレベルに合わせて授業すれば大丈夫です。もちろん個別指導も行います。

——中国語を勉強するときのポイントはどこなところですか。

語学に共通することかと思いますが、学んでいる言語を実際に使ってしゃべること、話すことです。それから、私がいつも受講生に言っていますが、音読することが大事です。テキストの音読、できれば暗記。あとは、受講生どうしでお話すること、ネイティブの人とお喋りすること。中国映画を見ること、中国語の歌を歌うことも大切です。

——先生の授業のホームページを拝見させていただいたのですが、「ピンイン」という言葉が出てきました。これはどういうものですか？

中国語の発音記号です。とても大事ですね。ピンインが読めなければ、中国語の勉強ができなくて、上達しないです。

——受講生の皆さんは、実際に中国に行かれることはありますか。

はい。社会人の皆さんは、多分趣味で旅行に行かれることが多いですね。年に何回も中国へ旅行に行く方もいらっしゃいます。現役の学生さんはこれからですね。中国に行ってみたい学生が多いです。行き先は、中国、香港、台湾など。ほとんどが自分の力で旅行に行かれます。一人とか、受講生どうしとか、あるいはご家族と。受講生どうしで行くことも多いです。講座で皆さんが友達になって、良く一緒に旅行に行かれるそうです。旅行を通じて学習意欲の向上にもつながります。

——学んだことを現地で活用されているんですね。最後に、中国語を学んでおられる方にアドバイスなどがありましたら。

やっぱり、実際に中国に行ってみることでですね。せっかくいっぱい学んでこられたのだから、実際に中国語を使ってみるのがやっぱり大切です。あとは、独学ではなく、教室に入って勉強した方がいいと思います。独学では得られないことがたくさんあります。ほとんどの受講生にとって、週一回、公開講座で、仲間と会ってお話することも生活の楽しみの一つになっているようです。同じ目標、似たような趣味、話があう、気も合う人達ですから。一生懸命何かについて勉強されている方はとても素敵だなとも思います。

——お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

以上が、楊峰先生に対するインタビュー記録である。そこでいくつか浮かび上がってきた諸点について述べると次のようになる。まず第一に、公開講座の受講生がまじめで熱心な学習態度を持っていることである。中には、帰宅後の入念な復習の様子についてもうかがうことができた。そして第二に、受講生はすでに中国に関する豊富な情報を持っており、「簡単な知識や情報では満足できない」という学習段階にある点である。受講生の多くが中国旅行の経験を持ち、継続的に訪問している事実もあきらかになった。そうした中国語の実践経験がふだんのまじめで熱心な学習態度を維持することに寄与している点も見逃せないだろう。第三に、受講生の中には若い学生の姿も見られるということである。就職や社会的活動に活かすべく、学業との両立をはかりながら学ぶ真摯な姿が印象に残る。第四は、楊先生の包容力ある指導の姿である。学習履歴がそうとう異なる現状に対し、テキストを用いた指導に「プラスα」を加えた形で対応されているとのことである。そうし

た柔軟な指導を展開していることも関係してか、受講生からの厚い信頼を得ている様子うかがえた。「講座を絶対にやめないで下さい」という受講生の声がそれを物語っている。今後もこのような学びの場が継続していくことで受講生の糧となり、ひいては充実した地域貢献の発展に結びついていくことを願うばかりである。

(聞き手：生涯学習部門・仲嶺 政光)